プレスリリース

平成２６年１０月７日

ＡＬＩＣ／ＭＬＡ　定期情報交換会議の概要について

独立行政法人農畜産業振興機構

このたび、独立行政法人農畜産業振興機構（ＡＬＩＣ）は、豪州食肉家畜生産者事業団（ＭＬＡ）と定期情報交換会議を開催しました。

本会議は、日本、豪州の牛肉の需給状況等について意見交換を行う場として、両国において原則として毎年度交互に開催しており、今回で通算２３回目となります。

１　日　時：平成２６年１０月２日(木)１４時～１６時３０分

２　場　所：豪州・シドニー　ＭＬＡ会議室

３　参加者

ＡＬＩＣ

佐藤理事長、強谷総括理事、西村調査情報部調査役、伊藤（調査情報部）

ＭＬＡ

ミシェル・アラン	会長
リチャード・ノートン	社長
マイケル・エドモンズ	マーケティング部長
アンドリュー・コックス	駐日代表
近藤　美穂子	日本市場担当シニア・マネージャー
ベン・トーマス	マーケット情報担当マネージャー

４　会議内容

アラン会長と佐藤理事長の挨拶の後、ＭＬＡから豪州の牛肉需給やマーケティング戦略について以下のとおり説明し、ＡＬＩＣからは、日本の牛肉需給や農産物・牛肉輸出の現状などを説明し、意見交換を行った。

【肉牛・牛肉生産の動向】

- ２０１３、１４年の干ばつによると畜頭数の増加は雌牛にも及び、２０１３年の牛肉生産量は２３０万トン超と過去最高を記録。２０１４年も同水準を維持する見込み。
- 一方、インドネシアやベトナムを中心に生体牛の輸出需要も堅調で、２０１４年は過去最高の１１０万頭となる見込み。
- ２０１５年の牛飼養頭数は、過去２年のと畜頭数の増加や、雌牛の減少による子牛生産の減少、生体輸出の増加により、過去２０年来で最低水準となる見込み。フィードロットの飼養頭数も、８０万頭台の高水準から、２０１５年は７５万頭台程度で推移する見込み。

【牛肉輸出の動向】

- 日本向け輸出は減少傾向にあるが、２０１４年１～８月の内訳を見ると、冷凍・牧草肥育（グラスフェッド）牛肉が減少する一方、冷蔵・穀物肥育（グレインフェッド）牛肉が増加している。２０１５年は牛肉生産の減少により豪州輸出全体が１００万トンを下回る中で、日本向けはその２６％程度となる見込み。
- 中国向け輸出は、国内需要の高まりを背景に、国内の飼養頭数の減少などにより２０１３年に急増。この一方で、ベトナムや香港向けが減少。しかし、成長促進ホルモンの使用禁止等の通商政策上の問題から、２０１４年以降、その勢いは沈静化。
- 米国では、干ばつにより飼養頭数が減少し、国内の供給減から牛肉価格が高騰。加工用牛肉を中心に豪州産への引合いが強まり、米国向け輸出は２０１４年に２００３年以来の最大の輸出先となる見込み。輸出価格も記録的な高値となり、日本が買いにくい状況にある。
- 日豪ＥＰＡの効果、米国の牛肉生産動向が注目されるが、日本の購買力がこの価格上昇にどの程度対応できるかが、今後の輸出動向を左右するとみる。

【ＭＬＡのマーケティング戦略の方向性について】

- 現在、５カ年計画の見直しを行っているところ。市場を新興(developing)市場と成熟(developed)市場の２つに分類し、中国、中東などの前者の市場では、貿易・流通を広げるための事業開発などの基礎作りを、日本、韓国、国内などの後者の市場では、引き続き安全性などの消費者の認知度の確保を重視することとしている。

（問い合わせ先）
担当者：調査情報部　西村、伊藤
電話番号：03-3583-4391、8105